

WALD NEWS LETTER



人と環境に優しい木造住宅
株式会社ヴァルト
Tel.026(268)4355

建物の劣化を防ぐ決め手
Breathability
呼吸性能「フレサビリティ」

〒381-0022 長野市大豆島 5215-1 (大豆島展示場)
http://wald-inc.jp/ 長野ヴァルト 検索



ゴールデンウィーク催しのお知らせ



今年のゴールデンウィーク催しは、すべて大豆島展示場内で企画しました。暖房・冷房環境を体感しやすい季節ではありませんが、それ以外のクリーンな室内空気や、防音性の高い室内環境を体感していただくには良い機会だと思います。

勉強会・相談会・体験イベントをどうぞお気軽にご活用ください。

★ライフプランに応じた資金計画

ライフプランナー：柳澤英昭氏

ファイナンシャルプランナーによるローン計画相談会です

将来を見据えたローン計画、しっかり試算してみましょう。お気軽にどうぞ。



★これからの家づくりの基本

講師：ヴァルト代表 小野治

時代にマッチした家づくりのポイントが聞ける気軽なセミナーです。これからの家づくりは、分りにくいことが多くあります。疑問点を聞いてみましょう。



★なんでも聞ける個別相談会

気軽に相談・質問できる、住まいづくりの個別相談会です。どんなことでも結構です。なんでも質問してください。



★フレッシュハーブロールパンづくり体験

展示場のキッチンで、パンづくり体験をしてみませんか？

- ・定員4名(参加費:500円)
- ・エプロンをご持参ください
- ・お施主様が作った農作物をプレゼント



GW催しカレンダー	4/28(土)	29(日)	30(月)	5/1	2	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)
ライフプランに応じた資金計画	10:00~12:00							10:00~12:00	10:00~12:00
これからの家づくりの基本	10:00~17:00	10:00~17:00				10:00~17:00	10:00~17:00	10:00~17:00	10:00~17:00
なんでも聞ける個別相談会			10:00~12:00			14:00~17:00	14:00~17:00	14:00~17:00	14:00~17:00
フレッシュハーブロールパン			10:00~12:00 14:00~16:00						

■ ライフプランに応じた資金計画 (相談会)

日頃から弊社相談会でお世話になっている、ファイナンシャルプランナーの柳澤氏が講師の、ローン計画 & 資金計画の相談会です。子育てにかかる費用など総合的な家族の資金計画をもとに、住まいづくりにかかる諸費用を確認した上で、より良い住宅ローンの組み方などの相談をしていただけます。専門家のきちんとした試算とはどんなものなのか、この機会に一度勉強されてみるのもよいのではないのでしょうか。

4/28, 5/5・6 の10:00~12:00の間でご予約頂き、ご利用ください。【弊社WEBサイトまたはお電話などで、お問い合わせください】

■ これからの家づくりの基本 (勉強会)

住まいづくりはここ数年で、益々多種多様なものになってきています。消費増税、住宅ローン減税、すまい給付金、相続税などお金に関する問題から、地球環境保全・省エネトレンドからの低炭素住宅やスマートハウスのような新しい考え方の普及、そして個々の建築地の条件・制約、そして個人の趣味・希望の問題まで、個人ではなかなか把握しきれない、そしてそれらは変動する要素も含まれています。こうした様々な要素が絡み合っていることが住まいづくりを難しくし、検討課題を複雑にしています。

お金に関する問題は柳澤氏など専門家にお任せするとして、ZEHなどを代表とする省エネ路線と、より豊かな生活を求める健康・快適路線は住まいそのものの基本的な性能に直接関係する要素を中心に進めていく予定です。弊社代表小野が担当します。

■ なんでも聞ける個別相談会

とにかく関連の幅が広い住まいづくりは、ほとんどの皆様にとって、分からない事が多いのではないかと思います。そんな方々の少しでも疑問解決のお手伝いをさせていただければと考え、この時期に集中して機会を設けました。どうぞご活用ください。

■ フレッシュハーブロールパンづくり体験 (体験 & お茶会)

恒例の展示場キッチン体験企画のひとつ、弊社代表の奥様が担当する、「パンづくり体験会 & お茶会」です。お一人でもご家族総出でも、どうぞお気軽にご参加ください。

いよいよ消費税が10%に

平成31年10月から消費税率が10%に上げられる予定です。建築費の消費税や関連費用の消費税がそれぞれアップすることになり、近く住まいづくりを予定されておいでのる方は、税率アップ前の検討をされるには、最後のタイミングになってきました。

	平成30年												平成31年												適用税率
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12							
注文住宅	請負契約の経過措置適用期限												税率アップ												ケース① 税率8%を適用 H31年3月末までの契約 ケース② 税率8%を適用 H31年9月末までの引渡 ケース③ 税率10%を適用 H31年4月以降の契約
ケース①	契約												引渡												
ケース②	契約												引渡												
ケース③	契約												引渡												

住まいの引き渡しが平成31年10日以降になると10%が適用されますが、工事請負契約には「経過措置」があり、31年3月末までに契約を行えば、引き渡しが31年10日以降になっても税率は8%のままとなります。

最近の住まいづくり

いざ、住まいづくりを計画し始めようとするとき、何から手を付けたら良いか分からなくなる方が多いとお聞きます。インターネットでは多くの情報があふれていて、余計に分からなくなってしまうようです。これはごく自然なことだと思います。それらすべてが検討課題の可能性があるので大変なのだと思えます。

お金に関すること、間取りに関すること、建築地に関すること、そもそも賃貸のままが良いのか、マンションがいいのか、戸建てが良いのか、と最初から迷ってしまう方も多くおいでだと思います。

数多くの住まいづくりのお手伝いをさせて頂いている私達にも、個人的な志向に関わる事柄では、はっきりしたお勧めするものはありません。なぜなら、皆さんそれぞれ状況・条件が様々で同じ条件の方はいらっしやらないと思えますし、そもそも、暮らし方を決めるのはあくまで住まい手ご本人だからです。

なので今回ここでは、逆にできるだけ細々と色々なことを取り上げてみますので、参考にいただければ幸いです。

住まいづくりに一番大事なことは目標を立てる、つまり『テーマを持つこと』、そして、『暮らしのシーンがしっかりとイメージできること』と言われることがあります。

でも「しっかりテーマを決める」といわれてもそう簡単ではないので、自分あるいは自分の家族は「こんな住まい」で「こんな暮らし方をしたい」という具体的な要望を出し合い、それらが出てくる背景になっている事情や住まいに対する考え方を確認し記録しておくことでも良いと思えます。

手順としてはこのようになると思えます。

- ①今までの暮らしを振り替える
- ②これからの暮らしに望むことを見つける
- ③上記をまとめる
- ④住まいづくりに活かす

このような順序で進められれば、比較的スムーズに望む住まいに近づけることができそうです。

そして①と②の今までを振り返り将来望むことを見つける時に、今まで知らなかったことなどもできるだけ収集し、これからの予測・方向性などの情報も併せて、望みに加えられるものがあるか検討してみてもどうでしょう。今までご存じなかったことや体験される機会が無かったことを、そのまま置き去りにされては勿体ないような気がします。

a. 外観

周囲の環境にマッチした、飽きのこない比較的シンプルな外観が好ましいと、一般的には言われていますが、最終的には個人の好みの問題になるのではないのでしょうか。

自然に考えてみると外観などは主に、内部の間取など機能面から自然に決まってくるものだと思



います。機能面とえば、屋根の軒の出が極端に小さな家を時々見受けられますが、軒が小さい場合、外壁に雨にかかり易くなる可能性があり、汚れが蓄積したり壁や窓周辺などが傷みやすくなる可能性があります。また解放されていた窓に突然の雨が入ってしまうことが増えるかもしれません。家全体を守るという観点からすれば大きめの軒の方が好ましいといえます。

b. 外構 (エクステリア)

外構自体は建物とは別物ですが、広く捉えれば建物の一部と考えた方が良いでしょう。例えば、南側の木々は夏の陽射しを和らげてくれ、室内温度の上昇を抑えてくれますが、葉の落ちた冬には室内に入り込んでくれる直射日光を妨げません。周囲の敷地の緑化は地面の温度上昇を抑え室内温度の上昇も抑えてくれる効果もあります。建物に大きな開口部を設けた場合でも外部からの視線を遮り、プライバシー保護の助けになります。

c. 外と内の境目

ウッドデッキなど、建物の外側にありながら、家の中と屋外との境目の部分があります。たとえばリビングの隣の外側にウッドデッキを設け、その隣に芝生の庭が繋がっている場合などは、リビングから庭まで大きな広がりのある空間として利用しやすくなります。このように、内外の境目部分の両方を工夫することで、機能面が向上したり、採光のバリエーションを広げることができたり、季節の移り変わりを感じながら暮らすための助けにすることができたりします。



d. 玄関

玄関の様子を見ただけでその家の暮らしぶりが感じ取れるといえます。玄関は人・ものが交錯する場所です。その出入りを整理して家の顔にふさわしい玄関を創りましょう。広さが確保できなくても、すっきりした玄関にする工夫が必要です。

普段使う靴を収納する下駄箱や玄関クローゼットとは別に玄関土間にある収納スペースがあると便利です。この収納スペースに、雨具、ゴルフバックやスキー用品などの趣味用具、外回りの掃除用具を収納します。どうしても土間に収納スペースが取れないという場合は廊下廻りに収納を用意してもいいでしょう。少しの余裕があれば、通常の玄関(お客様用)と勝手口と、家族や物の出し入れ口を総合的に連携する、機能的な出入口周辺を考えてみるのはどうでしょう。

また最近では玄関土間の一部に簡単な接客スペースなど、これまでの玄関ではあまりなかったようなスペース・機能を設けるケースもでてきています。



e. 物置と車庫

玄関と出入り口に関連して、車庫や物置、場合によってはキッチン用のパントリー（兼食品庫）なども併せて組み合わせると、より機能的で合理的な同線と収納スペースの組み合わせができるかもしれません。

車庫を家の中に設ける「インナーガレージ」は贅沢と言えその通りかもしれませんが、外部の物置や給湯・設備などの設置場所と組み合わせることで、様々な使い方が考えられます。家全体の満足度にも思った以上に貢献するかもしれません。

f. ハードとソフト

今回ここでは、住まいづくりの考え方として主に「ハード面」のリストアップをしていますが、むしろ「ソフト面」から考えて行った方が目的に合ったものになりやすいのかもしれない。

例えば、実際の行動として、「どのように食事を取るか」と考え、食事の準備は、誰が何時どのようにして、どこでどのように食事をするのか、とソフト面から考えを進めたのが、現在多くの住まいで見られるような、LDK という形になったと推測できます。

お母さんは家族とコミュニケーションをとりながらワンルームのキッチンで、子供達に手伝ってもらいながら食事の支度をし、リビングで新聞を読んでいたお父さんが、準備ができたなら直ぐにみんなで食事がとれる、という感じです。

逆に、「本格的な料理のために本格的なキッチン」をということになれば、キッチンを1部屋の中に収め、「厨房」的なものにしていく必要があるのかもしれない。

このように、今や住まいづくりはハードを考えるとき、むしろソフト面から考えることが多くなっていると言えるのではないのでしょうか。

g. バリアフリーと住まいの使いやすさ

少し前の伝統的な日本家屋といえば、玄関は土間から一段高いところの廊下の高さまでの段差があり存在感のある上がり框がつきものの玄関が普通でした。しかし今では老後の車椅子生活にも対応し易いように、段差はどんどん低めになり、場合によっては段差の無い、フラットな仕様の玄関さえ珍しくなくなってきました。

段差やスロープそして手すりのような象徴的な「バリアフリー仕様」とは違った方向性の使いやすさにも工夫され始めています。

昔は1畳ほどの広さがあるトイレはあまり見ることはあまり見ることはありませんでしたが、最近ではそれは普通の広さにもなっています。日頃開け放しておいた方が良いドアは都合の良い壁の中に引き込んでおけるものも珍しくありません。キッチンに隣接したパントリー（食品庫を含む）も普通になってきました。等々使い易いやさしい仕様がどんどん取り入れられるようになっていきます。

まだまだ色々考えられるはずですが、固定観念に縛られることなく自由な発想で考えてみましょう。

また多くのことは個人の趣味の問題（個人の好みの問題）として判断されることが多いと思いますが、おそらく大半の方が望まれるだろうという事柄も存在すると思います。

例えば、燃料費が多くなるのと省エネな家では、迷わず省エネ

な方を選ばれると想像できますし、冬寒くない家と寒さを我慢しなければならない家では、当然後者の快適な方が良く決まっています。これらのように、要素によっては優先度を考慮しながら進めることも大切ではないでしょうか。

h. 階段

上下階を行き来が出来るようにするのが階段の働きですが、階段のある場所やデザインを見ると住まう人の思いがよく伝わってくることがあります。

■家の象徴や楽しむ機能を加えた階段

玄関ホールやリビングに設けた階段には、象徴性や憧れを感じさせることがあります。よりダイナミックな空間を演出したい時は吹き抜けと組み合わせたりします。見せ方の工夫も楽しいものです。階段廻りを趣味のコレクションを飾ったり、より多くの角度から見えるように壁などを極力取り払うなどがあります。

■生活の導線考えた階段

見せることを考えるのとは逆に、ドアで区切った先に設けたりする、来客に見えにくいようにするケースもあります。プライベート空間の中にある階段はシンプルなデザインで昇降しやすさを大切に考えましょう。

i. 畳と和室

最近の間取りの傾向は、「和室をつくる家が減ってきた」といわれています。しかし、和室はないが畳コーナーはあるという形で畳み敷きの場所が残されているようです。もちろん伝統的な和室のある家も相当数残っています。しかし全体的な傾向として和室は伝統にこだわることなく、洋室の中に取り込んで新しい和のスタイルに変化しているように思えます。典型は、LDKの中または隣接の部屋として和室または畳み敷きのスペースとして残されているかたちです。

今までの和室の感覚とは少し違いますが、和風の雰囲気的空間、それがこれからの「和風コーナー」かもしれません。

j. 洗濯

最近は汚れたから洗うのではなく、着たから洗うという人が多くなってきているようで、より多くの作業時間を取られる家事の一つとなっています。

まず洗濯機の設置場所は、多くの家で洗面所(脱衣室)にあります。これは入浴時などに着替える可能性が高いことを考えると合理的な置き場所かもしれません。しかし一歩進めて考えると、洗濯物の置き場所を脱衣室に残せば、洗濯機はその近くの別の場所でもよいことになるかもしれません。

例えば、脱衣室の隣に雨天用の洗濯 & 乾燥室を設け、晴れた日には乾燥室から直接隣接の屋外物干し場に干すという流れもありかもしれません。より現実的にするには、この乾燥室の別の利用方法も考えることで、より設けやすくなるかもしれません。

多くの場合、洗濯物の干し場は、庭か物干し場ということになっているようです。次に、洗濯物をたたんだりアイロン掛けをする場所は、ほとんどの家で、リビングや和室となっているようですが、先ほどの乾燥室をそれに充て、さらに近くに収納場所を設けることができれば、より完成度の高い「洗濯から収納までの仕組み」がで



き上がるかもしれません。このように、新しい仕事の流れを考えてみてはいかがでしょうか。

k. 入浴

最近のお風呂は機能が充実し、見た目にも豪華になってきました。また、一方では、できるだけメンテナンスのし易い、シンプルなものを目指す動きもあります。



そして脱衣室は洗面室と兼ねた一つの空間として「洗面」「脱衣」「洗濯」をまとめて行うケースが多いようですが、入浴する流れに沿って脱いだ衣類をどこに置くのか、洗濯物はどうするのか、着替えをどう置いておくか、しっかり計画しておくことが大切です。

お年寄りがいる場合は、椅子に座りながらゆっくりと着替えをしたり、身づくろいをしたいものです。椅子の近くに着替えを置ける空間をつくりたい気がします、これはお年寄りに限らないかもしれません。

豊かな暮らしの実現という視点で見ると入浴するための空間づくりはまだまだ衛生設備の域をでていないようで、もっとゆったり贅次に、気分よく使えるように、理想の姿に思いを巡らせてみましょう。

l. こども部屋などの対応

お子様がすこやかに育つための環境づくりはとても大切なものです。小さい時はきちんと目が行き届くように、でも大きくなったら自立心を養えるようにという間取りは、きちんと最初から計画して作らなくては実現できません。また、子供の自立心を大切にすると同時に家族間のコミュニケーションも大切にできるような間取りにすることも重要です。

では、子育てのための住宅設計をする際には、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

子供の成長に合わせた設計

幼稚園児から中学生までの時間というのは、子供にとっては大きな数年です。体の大きさや精神面が大きく変わっていきますから、その成長に対応できる間取りであることが大切です。

小さいからこそ問題にも備える

子供が小さいうちは、足音やおもちゃの音、叫び声などが騒音問題になることもあります。こうした問題についても事前に考えておけたら理想です。

家族のコミュニケーション

特にリビングやダイニングの設計は、家族でコミュニケーションの機会が取りやすくなるような工夫をしましょう。

学習しやすい環境を与える

幼稚園児から中学生までの時間というのは子供がプライベート空間を持つ前から、学習するスペースを設けることで、勉強する習慣をつけさせることができます。

自立心を大切に

子供は大きくなるに従い、プライベートな空間を欲するようになりま

す。子供用の個室を用意できるような設計にしておきましょう。

畳み敷きのスペースでは、子供が多少おもちゃを落としても、音の大きさや床へのダメージはフローリングに比べて大分軽減されます。また、幼児期には床に寝転がって遊ぶためのプレイルームとしても利用できます。

リビングに、子供のための学習、収納スペースを作ることで、自分の場所という意識を持たせることができ、自ら片付け、きれいに保とうという意識を育てます。また、リビングの一角にあるスペースですから親の目も行き届きますし、コミュニケーション不足になることもありません。

将来間仕切り可能なスペースでは、例えば子供が小さい頃は家族全員の寝室で、または、兄弟姉妹の子供部屋として利用し、成長したら分割することができるという、自由度の高い準備を。

子供の成長に合わせて、わけた部屋を子供の個室にして、自立心を育むことができます。



※ 掲載スペースの関係で以下は次回以降に掲載します。

m. 照明と採光、n. リビング、o. 寝室、p. 書斎・趣味の部屋、q. トイレ、r. 接客、s. キッチンとダイニング、t. キッチン廻りと勝手口、u. 収納、v. 給湯、w. 地盤と地域特性、x. 敷地への最適化、y. 省エネと創エネ、z. 室内気候と健康・快適、

紙上見学会

▼別荘として立てられた家です。建築主は「自宅より寒い場所にあるのに、自宅より暖かくて快適!」と、足繁く通っておいでのようです。どの場所も余裕をもって造られているので、居心地の良さは、ご自宅以上のようです。

蓄熱式の薪ストーブを備えた別荘らしい別荘です。

